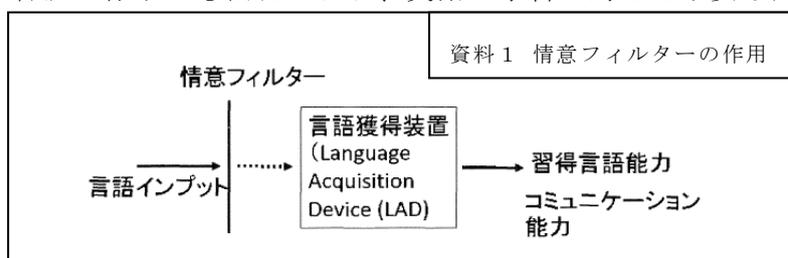


## 1 主題設定の理由

新学習指導要録の改訂に伴い、小学校高学年の外国語活動が英語として教科化されることになり、英語教育のさらなる充実が求められている。しかし、英語への苦手意識が強い生徒は依然と少なくない。この苦手意識の背景には、英語学習に対しての不安な気持ちや心配な気持ちが大きく関係していると思われる。「この発音の仕方で合っているのかな」「この表現の仕方でいいのかな」という不安な気持ち、「間違えて答えて笑われたらどうしよう」という心配な気持ちなどが、生徒たちの英語学習への妨げになっていると考えられる。

言語学者の Krashen（クラッシュェン）は、言語学習と学習者の感情との関係を **affective filter**（情意フィルター）と定義し、次のように述べている。「言語学習の過程において、ネガティブな感情が多く出てくると、情意フィルターが作用し、ネガティブな感情によって学習者は精神的にブロックされてしまい、理解可能なインプットが学習者には届かない。逆に、ポジティブな感情が多くなると、学習者の情意フィルターの数値が下がり、学習者は、理解可能なインプットを受け取ることができる。」つまり、ネガティブな感情は学習を妨害し、ポジティブな感情は、学習を促す、ということである。（資料1）これについては、生徒たちの普段の様子にも表れており、英語の学習に対して不安な気持ち

強く、自信がない生徒ほど音読する時の声は小さく、指名された時に解答がわかって



いても口ごもってしまいがちである。反対に、積極的に英語を発音したり、自己表現活動しようしたりする生徒は、自分自身のことや自分の思いを伝えたいという気持ちが強く、表現活動を通して、自分の伝えたいことが伝えられたという達成感を感じ、それが彼らの自信へとつながっている。

普段の授業の中で継続的に行う活動を通して、生徒たちが抱きがちな英語学習に対する

ネガティブな感情をいかに軽減し、達成感や自信を持たせるか、そこに焦点を置き、実践を検証していく。

## 2 研究の仮説と手だて

### (1) 目指す生徒像

- ・ 英語を使ったコミュニケーション活動を楽しめる生徒
- ・ 間違ふことを恐れず、英語で自己表現できる生徒

### (2) 研究の仮説

英語の学習について困っていること・困難に感じていることについて生徒にアンケートを取ったところ、困っていることの上位を占めたのは「英語を話すのが難しい」、「英語の文を音読するのが難しい」、「読み方はわかっても英語の発音に自信がない」などの英語を発音することに関係している項目であった。そのことから、英語の発音に自信のなさを感じている生徒が多いことがわかる。英語を発音することは、英語でコミュニケーションすることの基本となる。英語を発音することに少しでも自信を持つことができれば、英語学習にも前向きに、自信を持って取り組めるようになるのではないだろうかと考え、次のように仮説を立てた。

#### 【仮説 1】

継続的に英語の発音練習・会話練習を行っていけば、英語を発音することに自信が付き、英語を使ってのコミュニケーション活動を楽しむことができるだろう。

上記でも述べたが、ポジティブな感情は学習に好影響をもたらす。では、言語学習においてのポジティブな感情とは何だろうか。それは、伝えたいことを相手に伝えられた、相手の言っていることが理解できた、という達成感や満足感ではないだろうか。そこで二つ目の仮説を次のように立てた。

#### 【仮説 2】

達成感を感じることができる自己表現活動を行っていけば、英語の学習に対して前向きになり、間違ふことを恐れずに英語で自己表現ができるようになるだろう。

### (3) 研究の手だて

#### ア 仮説 1 に対する手だて

- 継続的に発音練習・会話練習をする活動を行う。
  - ① フォニックスの導入
  - ② 会話シートを使った会話練習



音できるか、繰り返し練習していた。ただ、その時に恥ずかしがってあまり大きく口を動かしたりしない生徒もあり、年齢がもう少し低い中学1年時や小学生の時にフォニックスを導入したら、恥ずかしい・照れくさいという気持ちをあまりもつことなく発音練習ができるかもしれないと感じた。

発音練習をした後に、聞き取りクイズを行ったのだが（資料3）、それにより、それぞれのアルファベットのもつ音の違いをより意識している生徒が多かった。この

1 hot / hut	2 vet / bet	3 lip / rip	資料3 聞き取りクイズの例
-------------	-------------	-------------	---------------

聞き取りクイズに関しては、英語が苦手な生徒や発音するのが苦手な生徒も意欲的に取り組んでいた。「今、口を縦に開けてアっていったよね」、「今、下唇少しかんで発音してた」、「あんまり口を開けずにアって言ってたよ」などと、生徒たちは教師の口の開け方や唇の動きに注目して、聞き取りをしていた。また、それぞれの発音の仕方のポイントを理解してクイズに取り組んでいた。そして、答え合わせをした時に、自分の答えが合っていると、「よし!」、「やった、全問正解だった!」と嬉しそうに反応をしていた。発音に自信がない生徒も、まずは聞き取りならできる、というところから自信をつけていってほしいと思う。

フォニックスを通して、その文字や文字の組み合わせの音を発音する中で、改めて英語と日本語の音の違いも認識できると思われる。生徒たち自身が文字を見て、自分の力で単語が読めるようになる、そしてそれが英語学習に対しての自信につながることを考えると、フォニックスを学ぶ意義は大いにある。今後も継続してフォニックスを活用した発音指導を行い、生徒たちの変容を見ていきたい。

## (2) 会話シートを使った会話練習

### ア 概要

相手に質問し、また相手の質問に答えるというのは、会話の基本である。最終的な目標としては、自分で相手に聞きたい質問をその場で作り、自然に会話できるようにすることだが、生徒たちが即興で質問を作り、英語で会話をするのはなかなか難しいのが現状である。まずは決められた形の質問に自分自身のことについて答えるということ、話す相手の方を見て会話することに重点を置き、日常的に会話練

Question	質問の意図	Answer(例)
1. How are you doing? / How's going?	状況の確認	(例) I'm fine. / I'm tired. / I'm OK. etc.
2. How old are you?	年齢の確認	I'm fourteen (14 years).
3. Where are you from?	出身の確認	(例) I'm from Kanagawa.
4. When's your birthday?	誕生日の確認	(例) My birthday is April 20.
5. Do you have any brothers or sisters?	兄弟姉妹の確認	(例) Yes, I do. I have one brother / No, I don't.
6. What's your favorite subject?	好きな科目の確認	(例) My favorite subject is English.
7. Who's your favorite singer?	好きな歌手の確認	(例) My favorite singer is Maroon 5.
8. What did you have for breakfast this morning?	朝食の確認	(例) I had toast and milk.
9. What time did you go to bed last night?	就寝時刻の確認	(例) I went to bed at 10:30.
10. Can you swim well?	スキューバの確認	Yes, I can. / No, I can't.
11. Which do you like better, dogs or cats?	犬か猫かの確認	I like dogs (cats) better.
12. What reason do you like the best?	好きな理由の確認	(例) I like singing (the best).
13. Who is the tallest in your family?	家族の身長の確認	(例) My brother is.
14. What were you doing around 8 last night?	8時頃の活動の確認	(例) I was watching TV then.
15. What are you going to do after school today?	今日の放課後の活動の確認	(例) I am going to play baseball.
16. How many books do you have?	本の数の確認	(例) I have about 20 books. ( I have no books.)
17. How do you come to school?	通学手段の確認	I walk to school. / I come to school by bike.
18. Are there any shops near your house?	家の近くの店舗の確認	Yes, there are. / No, there aren't.
19. What country do you want to visit?	訪れたい国の確認	(例) I want to visit France.
20. If you have one million yen, what do you want to do?	100万円の使い方の確認	(例) I want to travel around the world.

資料4 会話シート

習を行った。

会話シート(資料4)には既習文法を使った20問の質問と、その答え方の例を載せてある。このうちの数問を指定して会話させたり、質問の一部分をアレンジして聞く内容を変えたりするなど、繰り返し練習は行うが、生徒たちの飽きがこないように工夫をした。

#### イ 実践内容

- ① 指示された質問をお互い聞き合う。(資料5)
- ② ペアでの会話練習が終わったところで、教師が全体で何人か指名し、生徒は質問に答える。その際に、教師は生徒が答えた内容に対して、さらに質問をする。



資料5 会話練習をする生徒の様子

#### ウ 考察

授業の冒頭に英語で会話する練習を繰り返し行くと、生徒たちの中でもペアで会話することに慣れ、リラックスした雰囲気での会話ができるようになってきた。しかし、会話シートに頼りすぎてしまって、アイコンタクトができず、ただ機械的に会話練習をしているだけの生徒も見られた。

ペアで会話練習している時はにこやかだが、全体の前で指名されると、緊張と不安からか、答える声が小さくなったり、文ではなく単語で短く答えようとしたりする生徒がいた。また、決められた質問には自信をもって答えられても、追加で練習をしていない質問をされると、何と答えていいかわからず沈黙してしまう生徒も少なくなかった。次がその例である。

教師：What country do you want to visit?

生徒A：I want to visit France.

教師：France? Sounds nice. What do you want to do there?

生徒A：……(silence)

質問の内容がわかっても、何と答えたらいいか自信がなく、答えられない生徒が少なくないのが現状である。多少間違ってもいいので、もっと自由に英語で表現できる授業の雰囲気作りをするための具体的な手だてを考えていきたい。

3年生は、これまで学習してきたことを使って表現できることがたくさんある。自分で自由に英語で表現できるようになるための足掛かりとして、会話シートを使って

の会話練習を実践しているが、まだまだ形だけで終わってしまっていると感じるところがある。生徒たちが自信をもって英語で自己表現できるようになるために、どんなアプローチをすべきか、さらに考えていきたい。

### (3) 「ふりかえり」としての自由英作文

#### ア 概要

自分で自由に英作文してみようと言っても何を書いていいかわからず、戸惑う生徒が多い。NEW HORIZON3の中にもファンレターを書いてみようという内容や、修学旅行で体験したことについて表現してみようという内容で、まとまった量の英文を書くという单元があるが、英語が苦手な生徒にとってはハードルが高い課題である。

いきなりたくさんの量は書けなくても、少量の文でも自分で内容を考え、自分の言葉で書いてみるというスモールステップを重ねたら、それが「自分の力で英文を書けた」という成功体験へとつながり、英語学習に対しての自信とならないだろうか。そう考え、実践した。

#### イ 実践の内容

- ① 新しい文法事項を学習した時に、ふりかえりとして、その習った文法事項を使った英作文をする。
- ② 生徒が書いたふりかえりをチェックし、フィードバックする。

#### ウ 考察

〔新しい文法を学習する → 文を作る練習をする → ふりかえりとして自分で英作文する〕という流れで英作文をさせたため、習ったことをうまく活用して自分の文を作れている生徒が多いと感じた。短くても、1文でもいいからと言うと、苦手な生徒でも頑張って文を書こうとする様子が見られた。

ふりかえり (習ったことを使って自分で文を作ってみよう!)

*I've already taken a bath.  
Have you taken a bath yet?*

資料6 生徒が書いた英作文

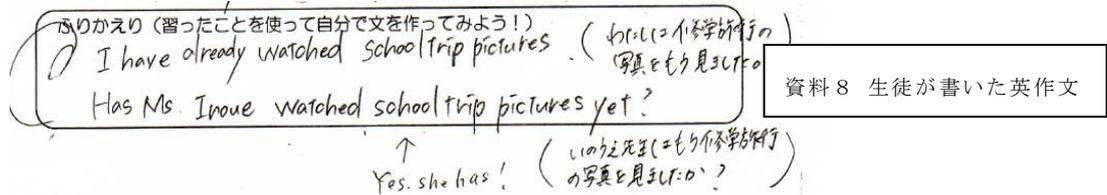
資料6のふりかえりを書いた生徒は比較的英語が苦手な生徒である。つづりに若干の間違ひはあるものの、自分なりに習ったことを使って英作文をしていた。自分の力で書けた、という積み重ねを続けて自信につなげていってほしいと思う。

ふりかえり (習ったことを使って自分で文を作ってみよう!)

*Very good!  
Have you ever heard of the name Oda Nobunaga? I've never eaten kvabia before, because I don't have any money to buy it.*

資料7 生徒が書いた英作文

資料7のふりかえりを書いた生徒は「キャビアを食べたことがない」という習った文法事項を使った文を書いただけでなく、そこにその理由まで付け加えて英作文していた。新しく習ったことと、これまでに習ったことをうまく組み合わせて表現できおり、自分でそのような工夫をして文を作ることの続けていけば、自己表現する力をさらに伸ばしていけると期待している。



資料8のふりかえりを生徒が書いたとき、ちょうど修学旅行の写真注文する時期であった。その状況でやり取りしそうな内容の文を、生徒は習った文法を使って作文していた。また、教師に質問する形でも英作文しており、教師もそれに回答した。このようなやりとりを通して、自分の書いた文が相手に伝わって嬉しい、英語を使って相手とコミュニケーションすることが楽しい、というような達成感や英語学習に対するポジティブな感情を育んでいきたい。

生徒に自己表現させる際に、生徒が自己表現したものに対して、教師がフィードバックすることがとても大切だと思う。もっとうまく文を作れるようにしたい、もっと自由に自己表現できるようになりたい、という生徒の動機付けになるようなフィードバックを与えられるよう努めていきたい。

#### (4) MTAの実施

##### ア 概要

MTAとは Meet the ALT の意味で、本校に派遣されるALT (Assistant Language Teacher : 外国語指導助手) と生徒が1対1で会話をする活動のことを指す。本校では各学年少なくとも年度に1回、可能ならば年度に2回のペースでMTAを実施している。MTAは、生徒たちにとってネイティブスピーカーと英語で話す貴重な機会であり、これまで習ったことを発揮して、自分でどこまで英語でコミュニケーションを取れるかを試す機会でもある。

今回のMTAは自然な流れで会話ができることを目標とし、あらかじめ生徒たちに質問リストを配付し、それを元に会話を展開していく、という方法を取った。

##### イ 実践の内容

- ① 質問リストを配付し、どの質問をされても答えられるように準備しておく。

自分から聞きたい質問があればそれも考えておく。

② A L T と 1 対 1 で会話する。（資料 9）

#### ウ 考察

大半の生徒は、事前にしっかりと準備をし、リストにある質問に答えられるよう練習していた。しかし、会話の流れでリストに載っていること以外の質問をされた時に、どう答えたらいいかわからず、答えられなかったり、的外れなことを答えてしまったりした生徒もいたようだった。反対に、予想外のことを聞かれても、これまでに習ったことをなんとか組み合わせて答えていた生徒もいた。次がその会話の一例である。

A L T : Where did you go on your school trip?

生徒 B : We went to Tokyo and Kamakura.

A L T : How did you get there?

生徒 B : We went there by Shinkansen.

A L T : Was it your first time to take shinkansen?

生徒 B : ..... ah.... no, it was not first time.

Have you ever taken shinkansen?

生徒 B は、“ Was it your first time to take shinkansen?”という質問の意味が最初よくわからず、最初沈黙があったが、first time という表現から質問の意味を推測し、返答していた。さらに生徒 B は、これに続けて相手に質問する文もつけ加えていた。自信はなくても返答してみた、それが通じた、会話がつながった、というような経験の積み重ねが自信につながると感じた。実際、生徒 B は A L T との会話を終えて、自分が話した内容に自信がないところがあったと話していたが、相手との会話が成立して満足げな表情であった。



資料 9 MTA の様子

#### MTA を終えての生徒のふりかえり（一部）

- ・ ネイティブの先生と話すことで、自分の英語の実力を試せてよかった。
- ・ 質問された時に、理由をつけて答えることができた。また、自分で考えて伝えられることができてよかった。単語だけでも伝わることはあるけど、相手にもっと伝わりやすいように、文で色々なことが伝えられるようにしたい。
- ・ 伝えたいことを伝えることができた。答えを考えている時に “Well....” を使ったりして、少しでも英語を使うようにこころがけた。

思うようにいかないところがあったり、緊張していたりしても、多くの生徒たちがMTAでネイティブの先生と英語で話すことを楽しんでいたように感じた。それは、何かしら自分の伝えたいことが英語で伝えられたこと、相手の話していることが理解できたことに対して達成感や満足感を感じたからだと思う。同時に、全然分からなかった、緊張して頭が真っ白になって無言になってしまった、などのふりかえりを書いた生徒も多く、今後の課題も多い。「できない、わからない」と後ろ向きな気持ちになるのではなく、「たとえ間違えても、自分のことを伝えたい、相手のことを聞きたい」と生徒たちのポジティブな感情を引き出すには、普段からどんな働きかけをしたらよいか、改めて考えていきたい。

ALTの質問に対して何か返答し、それについて“How was it?”（それどうだった？）とシンプルに感想を求められたことに対して、答えられなかった生徒が多かった。日頃の会話練習の時から、相手が答えたことに対して質問を返す練習や、ひとつ質問して答えて終わりではなく、会話を自分たちで継続していく練習も今後必要であると感じた。まずは、相手が応えたことにリアクションすることから始め、ただ質問して、答えて、終わりという流れにならないよう、普段の会話練習を行っていききたい。

#### 4 研究のまとめ

日頃の授業の冒頭で、フォニックスの発音練習や会話練習を継続して行ってきたため、英語の音に親しみ、英語を発音することを楽しんでいる生徒は増えてきていると感じている。ただ、自信をもって発音できているかという点、それについてはまだまだそうではない生徒が多いと思われる。フォニックスについては、まだすべてのルールについて学習できていない状況である。今後も継続していくが、すべてのフォニックスルールを学習した時に、生徒たちにどのような変容が見られるのか、今後も研究を続けていく。特に、フォニックスを学習したことで、生徒たちの英語の発音に対しての不安な気持ちなどがどのくらい軽減されるものか、そこに着目していきたい。

ふりかえりとして英作文すること、MTAの実施は、検証の結果、生徒たちに達成感を味わせることのできる活動であると考えられる。ただ、その達成感を感じるためには、生徒ひとりひとりが、まずやってみよう、伝えてみよう、という気持ちをもつ必要がある。これらの活動に生徒たちが後ろ向きになり、準備をしないで参加すれば、「わからなかった、できなかった」を繰り返すこととなり、さらに英語学習に対してネガティブな感

情を抱き、自信をなくしかねない。そのような事態を避けるためにも、英語が苦手な生徒でも「できた、わかった」と感じることをできる取り組みを工夫する必要がある。

間違ったら恥ずかしいと思う自信のなさが、日本の英語学習者にとって、学習の妨げになっていることを強く感じる。少しでも生徒たちのそのような心の中のハードルを下げられるよう、授業の雰囲気作りを工夫したり、学習内容の改善を図ったりしていきたい。年度初めの授業で生徒たちには “Don’t be afraid of making mistakes!”（間違うことを恐れないで）と伝え、とにかく積極的に英語を使って活動することを呼びかけている。しかし、「間違えたっていいんだよ」と伝えていても、授業の中で正しいことを言わなければならない、という雰囲気が依然とあるのかもしれない。生徒が発言した時に、その内容の正誤にかかわらず、発言できたこと自体を”Nice!” “ Good job!”というように褒めるようなコメントを言うなど、生徒が気負いなく英語を発音したり、発表したりできる雰囲気作りをしていきたい。また、英語が苦手な生徒でも、自分でこれはできる、この活動には自信を持って取り組める、と思えるような聞き取りクイズのような活動をさらに取り入れていきたい。

自分のことを伝えたい、相手のことを知りたい、言語を通して多くの人と関わりたい、このような思いが言語学習において原動力となる。いかに言葉のもつ面白さや言葉を通じて人と関わる素晴らしさを生徒たちに伝えるか、それも今後の課題である。

#### 参考文献

- 感情が語学学習に与える影響：置き去りにされた課題 鈴木 栄  
湘南工科大学紀要 5 1 巻 1 号
- 情意領域を主眼とした第二言語習得における教授法について 山本子波  
筑波大学留学生センター日本語教育論集 2 9 巻
- 驚異のフォニックスワーク 3 5 武田千代城著 明治図書